

田中復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録

(令和2年7月2日(木) 15:55～16:05

於) 富岡町役場2階会議室)

1. 発言要旨

本日は、双葉町、大熊町、富岡町の3つの町を訪問させていただいて、町長さん、あるいは議長さんを始め、御関係の方々との意見交換を行うとともに、各町の特定復興再生拠点区域等を視察させていただきましたところでございます。

双葉町では、JR双葉駅の東側や今年秋に開館する予定の「双葉町産業交流センター」を視察させていただきました。大熊町では、下野上地域を視察させていただきました。富岡町では、JR夜ノ森駅の周辺地区を視察させていただきました。

各町長さんとの意見交換では、主に特定復興再生拠点区域外などの帰還困難区域の復興に向けての取り組みをぜひ進めてほしい、また、国際教育研究拠点の立地の場所について、いろいろと御要望があったところでございます。復興財源や人材の確保についても強い要望がありました。これらについてのお話をいろいろとさせていただいたわけでございます。

いずれにしましても、これからも現場主義のもとに立って、被災地に寄り添いながら復興を加速させるために全力を尽くす所存であります。

新型コロナウイルス感染症のことで、東京からこちらの現地に足を運ぶことができなかつたわけでございますが、今のところ、東京で再び感染者が増えておりましたし心配しておりますけれども、今はお伺いすることができる状況にあるわけですし、いろいろな機会を通じてお目にかかり、お話を聞き、私自身も現地に足を運ぶことを努力してまいりたいと思っております。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) ある町の方からは、特定復興再生拠点区域の拡大など、何らかの対応を迅速かつ早急に具体的に国の方針を示してほしいという要望があったと思うのですが、まずそれが出たことに対する受け止めと、それに対する答えをいつ頃出せそうかという目処などを教えていただけますか。

(答) 各町からそういうお話があったわけございまして、私が今日お答えしたのは、帰還困難区域については、たとえ長い年月を要するとしても、将来的に帰還困難区域の全てを避難指示解除して、復興再生に責任を持って取り組むという決意の下で、まずは特定

復興再生拠点区域の整備を進めてまいります。

拠点区域外については、これまでも地元の皆様が御要望をいろいろとおられまして、大変重く受けとめておるところでございます。昨年12月の基本方針においては、地域の実情や自治体の御要望等を踏まえ、今後の政策の方向性について検討を進めていくこととお話を申し上げたところでございます。

いずれにしても、大変重要なことでございますし、今回いただいた御要望を含めて、各町村の具体的な御要望等を踏まえながら、関係省庁と連携して検討してまいりたいと思っております。

(問) 先ほどのお話の中で、「除染なき避難指示解除」の方針についてなのですけれども、現在、飯舘村を中心に話が進んでいるように見えます。浪江、双葉、大熊、富岡、これらの地域についても適用する御予定、今、お考えはあるのでしょうか。

(答) 飯舘村からの御要望及び5月の与党からの申し出を受けて、地元の御意向に沿う拠点区域外の土地活用に向けた新たな避難指示解除の仕組みの検討を始めたところでございます。

昨日の原子力規制委員会では、内閣府から放射線防護対策の基本的考え方について説明を行って、審議が開始されたことを承知しております。同委員会における審議については、復興庁としても引き続き注視してまいりたいと思っております。

いずれにしても、各自治体、各地域によっていろいろなお話があるわけございまして、私たちは地元の御要望をしっかりと承りながら対応していくことが大事だと思っております。

(問) 浪江とか双葉、大熊には適用される可能性はあるのでしょうか。除染なき避難指示解除の方針が、飯舘だけではなくて、大熊、浪江、双葉、それぞれの地域で。

(答) まだ飯舘も含めて新たな避難指示解除の仕組みは検討中ございまして、方針が決定しているということは承知しておらないわけでございます。

いずれにしても、御要望を深く承りながら自治体、地域に応じて対応を丁寧にしていくことが大事だと思っております。今のところでは、そういうお話にさせていただきたいと思っております。

(問) 本日視察した双葉町の産業交流センターであったり、県のアーカイブ施設が来年のオリンピックの際には開館しているだろうというところで、復興の取り組みをされていく部分でどのように活用していきたいでしょうか。

(答) 私も今日、いろいろな施設を拝見させていただきましたし、計画も説明を受けました。

特に産業、あるいは工業団地、こういう街づくりが進んでいるわ

けですし、これから進められていくわけでございますけれど、いろいろとオファーもしっかりとあり、結構明るい見通しのものもございました。これからの計画も、我々はしっかりとサポートして、生業（なりわい）が成り立つように、そして、今まであった企業のみならず、新しい他の地域から企業の皆さんが進出していただけるような努力もサポートしていかなければならないと思います。

特に復興五輪が1年延びたわけでございますけれど、この地域にとって復興の状況等も含めて、いろいろと世界に発信したり、また、多くの皆さんに来ていただく、関心を持っていただく非常によい機会だと思えます。風評被害の払拭も含めてですが、ぜひ成功させていきたいと思っております、ぜひオリンピックも地元の生業も、人口の今後、帰還、そして新しく入ってこられることについても努力してまいりたいと思っております。

以上でございます。

(問) 国際教育研究拠点について、具体的に富岡町にという要望もありましたが、これについての受けとめをお願いします。

(答) 教育拠点のことは今後、関係の皆さんとも十分相談させていただいて、決定するわけでございます。

立地については、最終的なとりまとめとして、福島県と市町村が連携して中心的な役割を果たしていく。また、福島イノベーション・コースト構想の研究施設や東京電力福島第一原発との連携を重視すべきと。また、生活環境や交通アクセスや参加する大学や企業等の意向なども踏まえた上で、避難指示が出ている地域への立地を基本として決定すべき、立地、地域を政府、成案に合わせて決めることが重要、こういうこととされておるわけでございます、そのような御説明をさせていただいて、御要望は重く受けとめるということで、今日はお話を聞きました。

以上でございます。どうもありがとうございました。

(以 上)